

第14章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12～16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は1987年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2021年4月現在58地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。



第48図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

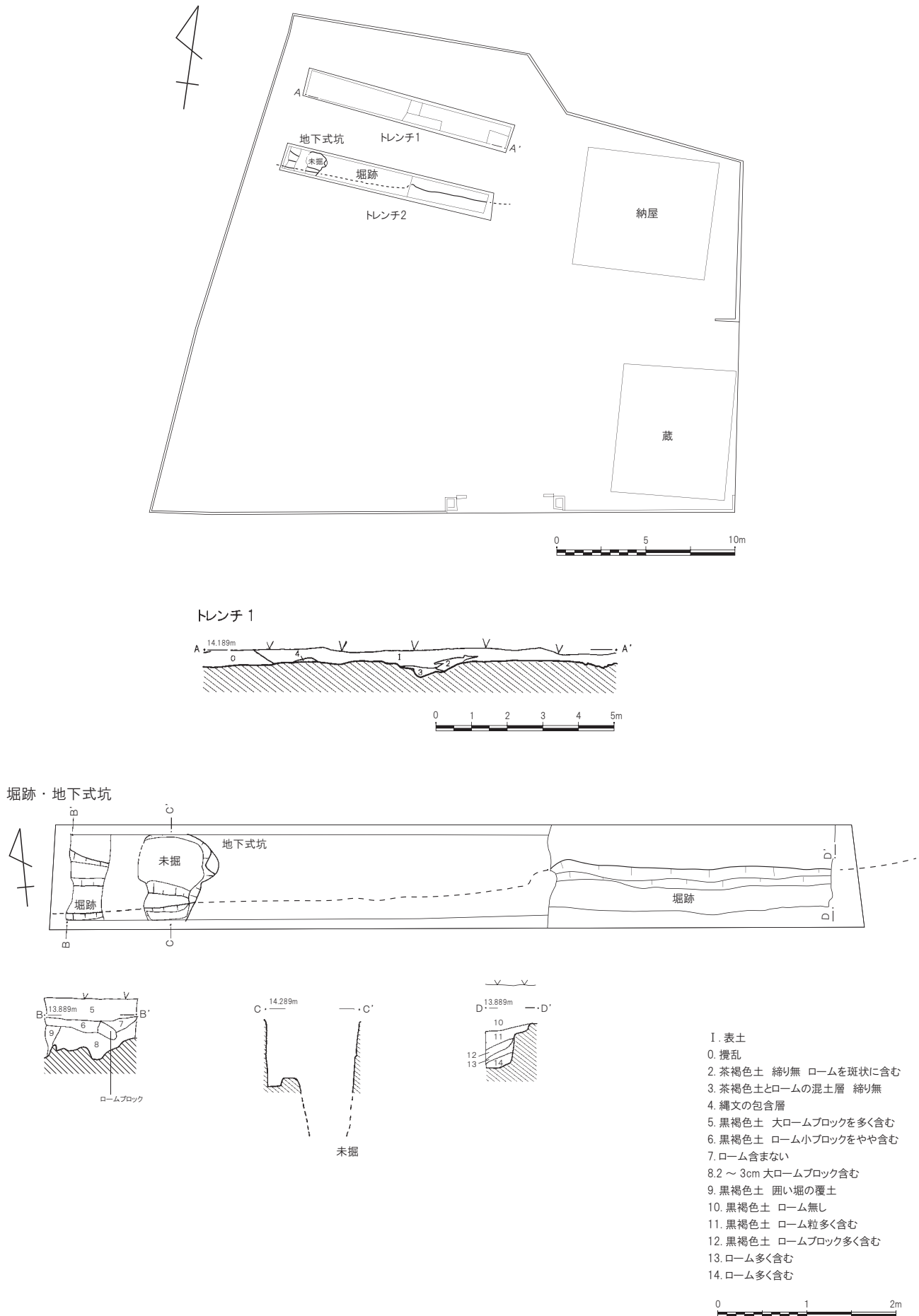
第33表 神明後遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6～11	615.47		共同住宅	溝、須恵器片等		町内Ⅲ
2	苗間 295-2、299-3	1993.5.12～20	1,688		道路築造	古代住居跡1、中近世掘建柱建物跡 多数、落とし穴、土坑、堀跡、井戸、 地下式坑		町内Ⅲ
3	苗間 309-12	(1995.3.24～29) 1995.4.3～5.19	200.03		分譲住宅	縄文時代住居跡1、土坑、ビット、 縄文土器等		町内Ⅵ
4	苗間 302	(1996.6.17～19)	703.76		物置	遺構なし、縄文土器片		町内Ⅵ
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15～4.2	80.17		個人住宅	縄文時代住居跡1、土坑、溝、縄文 土器		町内Ⅵ
6	苗間 255、227-2	(1997.9.29～30)	150.79		個人住宅	土坑、縄文土器片等		町内Ⅶ
7	苗間 260	(1998.6.1～2)	1,460		個人住宅	地下室、縄文土器等		町内Ⅷ
8	苗間 235-1	(1998.7.21～24)	458		共同住宅	集石土坑、土坑、溝、柵列、縄文 土器片		町内Ⅷ
9	苗間 310-1	(1998.9.1～11) 1998.9.14～10.15	219		共同住宅	縄文時代住居跡4、集石土坑、落と し穴、土坑、ビット、井戸、地下室、 縄文土器等		町内Ⅷ
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	(3)	個人住宅	遺構なし、縄文土器片		町内Ⅸ
11	苗間 366	(1999.10.21) 1999.10.22～26	239	(97)	個人住宅	土坑、ビット、縄文土器等		町内Ⅸ
12	苗間 282-2・5	(2000.3.6)	211	(8)	共同住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
13	苗間 302-1	(2000.4.17～19)	694	(154)	個人住宅	土坑、ビット、縄文土器等		町内Ⅹ
14	苗間 252-2	(2000.8.18～23)	357	(196)	共同住宅	中近世掘建柱建物跡1、土坑、ビッ ト、溝、井戸、柵列、縄文土器等		町内Ⅹ
15	苗間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12～13	163	50	個人住宅	集石土器、縄文土器片		町内Ⅺ
16	苗間 309-14	(2001.7.23～24) 2001.7.25～9.3	165	189	個人住宅	竪穴状遺構、屋外埋甕、土坑、ビッ ト、溝、地下式坑、地下室、縄文 土器等		町内Ⅺ
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	(7.5)	個人住宅	溝、砥石		町内Ⅺ
18	苗間 304-1、303-6	(2002.5.15～25) 2002.5.27～6.24	672	(220)	分譲住宅	縄文時代住居跡5、炉穴、土坑、溝、 ビット、堀跡		町内Ⅻ
19	苗間 264-4	(2002.9.18～20)	216		個人住宅	溝		町内Ⅻ
20	苗間 293-11	(2003.1.14～15)	143		個人住宅	ビット、溝		町内Ⅻ
21	苗間 283-1	(2003.1.10～30)	674		土地造成	土坑、ビット、井戸、地下室、段切、 陶磁器		町内Ⅻ
22	苗間 235-2・3	(2003.7.8～29)	430		分譲住宅	土坑、ビット、溝、井戸、陶磁器		町内Ⅻ
23	苗間 253	(2004.4.9)	62		個人住宅	地下室、銭貨		町内Ⅻ
24	苗間神明後 293- 4・10	(2004.9.30～10.7)	148		個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
25	苗間 295-1	(2004.9.30～10.7)	660		店舗併用住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
26	苗間神明後 301、 303-3～5・7、304-1	(2005.6.1～8) 2005.6.15～30	689	(160)	分譲住宅	縄文時代住居跡1、土坑、溝、地下 式坑、縄文土器等		大調 18
27	苗間 248-2、249-1	(2005.7.20～25) 2005.7.27～29	385	(80)	共同住宅	縄文時代住居跡1		大調 18
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8～31) 2006.6.29～10.5	2,171	(1,200)	宅地造成	縄文時代住居跡11、古代住居跡1、 屋外炉、集石、落とし穴、土坑、ビッ ト、溝、堀跡、縄文土器		市内 3
29	苗間神明後 303- 21・24	(2006.5.8～11) 2006.5.12～19	135.9	(52)	個人住宅	ビット、溝、縄文土器		市内 3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8～19) 2006.12.14～19	101.13	(60)	個人住宅	ビット、縄文土器		市内 3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3～7)	499	(72)	個人住宅	土坑		市内 4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	(31)	個人住宅	遺構なし、泥面子		市内 4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25～5.16)	298	(209)	個人住宅	落とし穴、土坑、ビット、溝、井戸、 陶磁器等		市内 6
33b			357		分譲住宅			
34	苗間字神明後 283- 1、284-1 の一部	(2008.4.30～5.15) 2008.5.16～28	1,693	(357)	分譲住宅	縄文時代住居跡1、集石、落とし穴、 ビット		市内 5
35	苗間字神明後 293- 6・20	(2008.8.1)	247	(26)	個人住宅	ビット、遺物なし		市内 6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	(37)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
37	苗間 258-1 の一部	(2009.4.13) 2009.4.15～30	120	(27) 32.5	個人住宅	縄文時代住居跡1、縄文土器		市内 8
38	苗間字神明後 292- 13、293-1	(2009.7.6～7) 2009.7.8～14	265.4	(118) 30	個人住宅	溝、縄文土器		市内 8
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5～12) 2009.8.24～9.1	378	(114) 105	共同住宅	落とし穴、土坑、ビット、溝、地 下式坑、縄文土器		市内 7

地区地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 (試掘)	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
40	苗間 309-1	(2009.11.9 ~ 16) 2009.12.18 ~ 2010.1.15	156	47 (77)	個人住宅	竪穴状遺構、集石土坑、土坑、ピット、溝、井戸、地下式坑、縄文土器		市内 8
41	苗間字神明後 298-1、299-1 の各一部	(2010.5.25 ~ 6.7) 2010.6.15 ~ 7.21	486.36	(400) 286	共同住宅	中世掘立柱建物跡 1、竪穴状遺構、石器集中、集石土坑、土坑、ピット、溝、木炭窯、石器 等		市内 9
42	苗間神明前 380-3	(2010.6.1 ~ 2)	312	(44)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 10
43	苗間 292-14	(2010.10.20 ~ 22) 2010.10.22	107	(42) 10	個人住宅	ピット、縄文土器 等		市内 10
44	苗間神明後 367-1、368-1 の一部	(2011.7.8) 2011.7.11 ~ 13	1,535.9	(63) 21	個人住宅	落とし穴、遺物なし		市内 14
45	苗間神明後 235-9	(2011.12.5)	200	(61)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
46	苗間神明後 235-6	(2012.4.9 ~ 10)	233	(52)	個人住宅	土坑、縄文土器片		市内 15
47	苗間神明後 227-2	(2012.4.24) 2012.4.25 ~ 5.10	340	(55) 27.5	個人住宅	集石、ピット、縄文土器片		市内 15
48	苗間神明後 315-1 の一部	(2012.5.7) 2012.5.8 ~ 14	171	(44) 26	個人住宅	土坑、ピット、溝、井戸、縄文土器 等		市内 15
49	苗間神明後 367-1, 368-6	(2013.1.30)	1,411.3	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
50	苗間 375	(2013.12.11)	531.8	(31.7)	薬師堂	土坑、磁器 等		市内 18
51	神明後 295-1、297-1・2 の一部、298-1、299-1	(2014.11.5 ~ 13) 2014.11.20 ~ 25	487.33	(116) 42.5	共同住宅	土坑、溝、縄文土器		市内 16
52	苗間字神明後 231-1	(2015.1.28)	379	(44.4)	個人住宅	ピット、縄文土器片		市内 20
53	苗間字神明後 298-1	(2015.3.19)	495	(14.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
54	苗間字神明後 293-7・9	(2015.12.3)	342	(6)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 22
55	苗間字神明後 310-1 の一部	(2017.5.8) 2017.5.9 ~ 12	180	(28) 27.44	個人住宅	縄文時代住居跡 2、土坑、ピット、縄文土器 等		市内 24
56	苗間字神明後 374-34	(2019.11.11)	255.58	(30.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
57	苗間字神明後 310-9	(2020.1.21)	146	(15.46)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 25
58	苗間字神明後 301-1	(2020.6.26・29)	732.41	(35.7)	個人住宅	堀跡、土器片等		市内 26



第49図 神明後遺跡遺構分布図 (1/2,000)



第 50 図 神明後遺跡第 58 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、堀跡 (1/60)

II 神明後遺跡第58地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2020年3月31日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2020年6月26～29日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約40～90cmである。

調査の結果、堀跡1本と地下式坑と考えられる遺構を確認したが保護層の確保が可能なため、工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

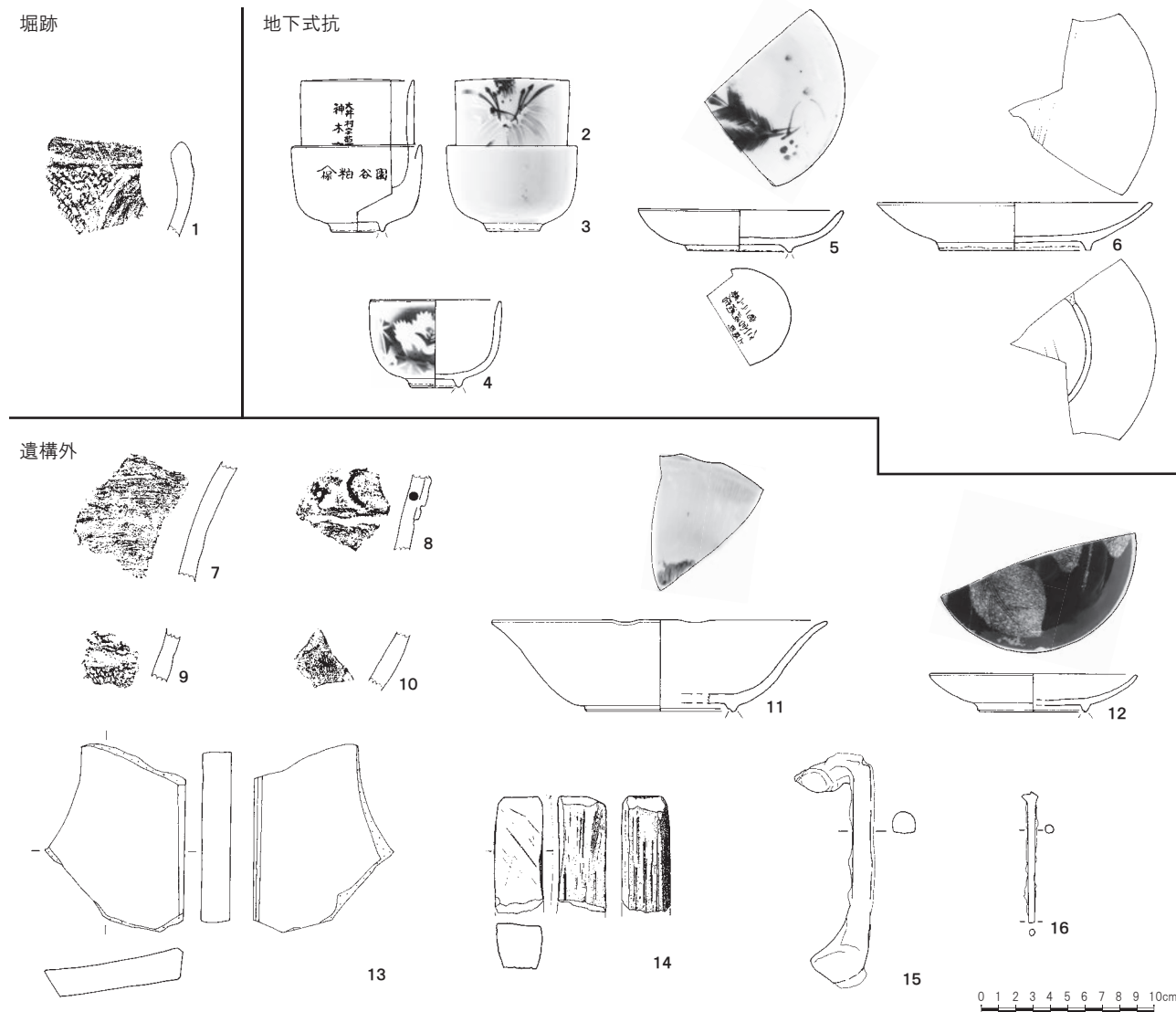
(2) 遺構と遺物

①堀跡

堀跡はトレンチ2で確認した。走行方向はほぼ東西方向を指向する。トレンチ内では北側の立ち上がりを確認したのみで南側の立ち上がりは調査区外のため、規模等詳細については不明である。

②地下式坑

地下式坑はトレンチ2西側で確認した。堀跡の立ち上がり北側に(130)cm×(90)cmの入口と思われる落ち込みを検出した。ほとんどが調査区外のため、規模等の詳細については不明である。



第51図 神明後遺跡第58地点出土遺物(1/4)

③出土遺物

遺物は堀跡・地下式坑共に出土したが、いずれも遺構の時期を示すものではない。詳細については第 51 図及び第 34 表に掲載した。

第 34 表 神明後遺跡第 58 地点出土遺物観察表（単位 cm・g）

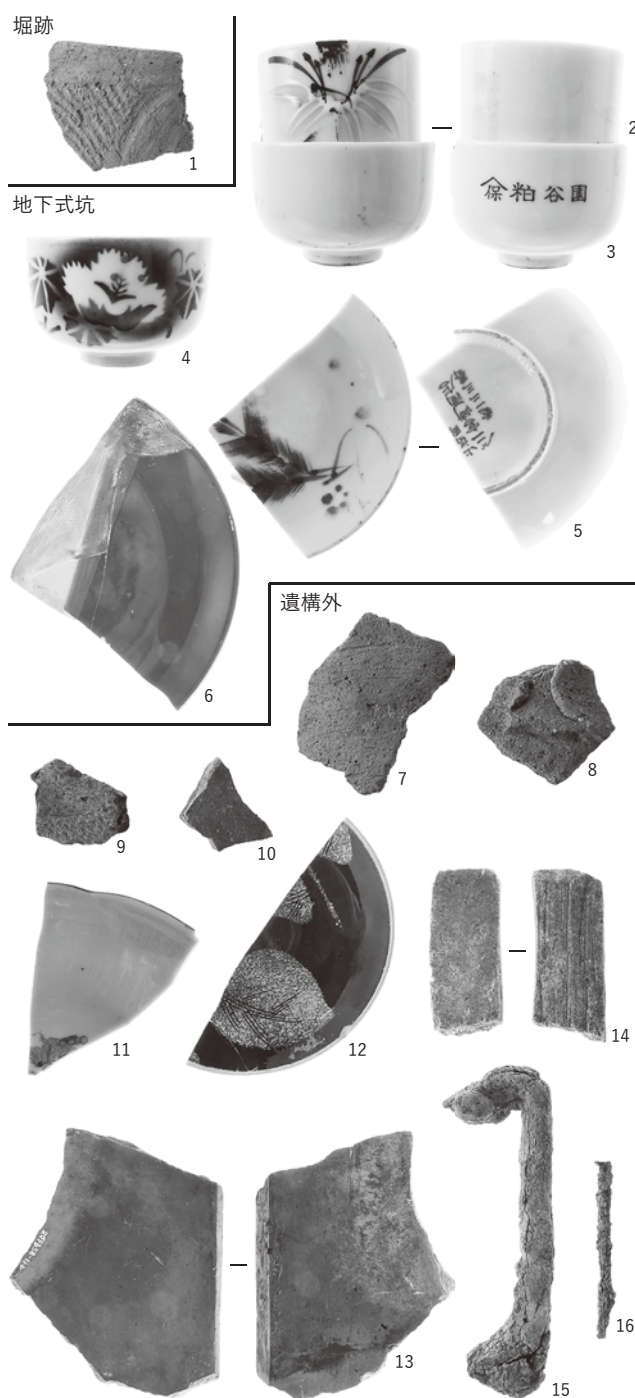
図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 51 図 -1	堀跡	縄文土器深鉢	—	—	—	—	地文 LR、口縁部に微隆起線が廻り無紋帯、二本の幅広い平行沈線文を構成	加曽利 E4 式
第 51 図 -2	地下式坑	磁器湯飲碗	6.6	—	—	—	3 と入れ子（内側）、釉下色絵、緑・水・茶色の絵の具と白のイッチンで笹文、側面に「大井村字苗間〇 神木商店」と上絵付	1890 年代～
第 51 図 -3		磁器湯飲碗	7.5	2.7	5.1	—	轆轤成形、白磁、側面に「（屋号：山に保）粕谷園」と上絵付	1890 年代～
第 51 図 -4		磁器湯飲碗	7.6	2.7	5.1	—	轆轤成形、コバルト、手描、畳付釉剥	1890 年代～
第 51 図 -5		磁器皿	12.0	6.0	2.4	—	轆轤成形、釉下色絵、緑・茶で松文、上絵付で赤の梅花文、底部にコバルトで「上福岡（屋号：山に二） 宮崎酒店 電一二三番」（現ふじみ野市福岡中央 2 丁目）、畳付釉剥	1890 年代～
第 51 図 -6		磁器皿	16.0	8.8	2.8	—	型作り、透明釉と銅緑釉の掛け分け、畳付無釉	1890 年代～
第 51 図 -7	遺構外	縄文式土器	—	—	—	—	胴部片、無文部	縄文前期力
第 51 図 -8			—	—	—	—	貼付文、胎土に金雲母片含む	阿玉台式期
第 51 図 -9			—	—	—	—	地文無節縄文力、胎土に繊維含む	縄文前期
第 51 図 -10		常滑甕	—	—	—	—	薄手	中世前期
第 51 図 -11		磁器皿	19.4	8.5	5.2	—	輪花型作り、銀彩、見込みプリント上絵付、畳付無釉	戦後
第 51 図 -12		磁器皿	12.0	6.2	2.2	—	型作り、こげ茶色の釉の上に白泥粉を振り手書きで葉脈を表現、畳付釉剥ぎ	戦後
第 51 図 -13		棧瓦	—	—	—	—	被熱で割れ口まで煤付着	明治～
第 51 図 -14		砥石	(6.6)	2.6	2.7	—	使用面は 1 面、他は鋸痕を残す、凝灰岩	近世～
第 51 図 -15		鉄製鋸	13.6	4.8	1.2	—	端部欠失	—
第 51 図 -16		鉄製釘	7.5	1.0	0.5	—	洋釘力	1872 年頃～



神明後遺跡第 58 地点トレンチ 2 堀跡



神明後遺跡第 58 地点堀跡・地下式坑



神明後遺跡第 58 地点出土遺物